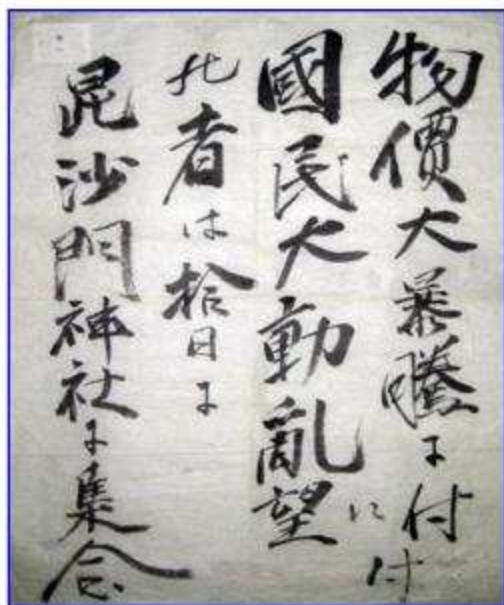


「物価大暴騰に付国民大動乱 望みの者は十日に毘沙門神社に集合」



資料1 「物価大暴騰に付檄文（米騒動）」

橋本（明）氏収集文書2075

8月9日、北埼玉郡羽生町（現羽生市）で県下最初の米騒動がおこった。「町内五カ所の電灯柱に米価問題町民大会に賛成の窮民は上羽生毘沙門天境内に集まるべし」（『国民新聞』）との貼り紙がなされ、同夜8時ごろに400人が集まったが、かけつけた警察官によって解散させられた。14日に川越町（現川越市）、20日に松山町（現東松山市）に不穏の貼り紙があり、26日にいって北埼玉郡南河原村（現行田市）で、農民が警鐘を乱打、こん棒を手に村役場に押し寄せ、翌日には外米の安売りを要求、小学校に集まり示威運動を起こした。28日には大里郡花園村（現深谷市）での外

米安売りの継続要求、29日の北足立郡膝折村（現朝霞市）の恩賜金の不公平な分配への談判などが発生した。

（『新編埼玉県史』通史編6）

米騒動



資料2 米騒動に関する窮民への御下賜

行政文書 大890

1917（大正6）年の半ばから上昇し始めた米価は、1918年になると前年の2倍以上に高騰し、民衆生活は極度の困難と不安に陥った。浦和米穀商組合の標準相場でも8月には米1升が50銭といわれ、賃金1日分に等しいところまで上昇した。埼玉県では、8月11日に川越の米穀問屋商組合が安売りをしたのをはじめ、大宮・浦和など町村レベルでの救済が始まるなど早めの対処が行われ、県内では警察に逮捕される者は1人も出なかった。資料は、天皇からの御下賜として、県下の窮民に金銭が与えられることを通知したものである。金銭の受領証もあり、受取人1人1人の印がある。

「普選の第1ページに記録される県会議員」



資料3「東京日日新聞 号外」

新藤家文書7

全県下を対象とした最初の普選は、昭和3(1928)年1月25日に行われた県会議員選挙であった。この選挙では、普選の採用により、有権者は前回12万6872人から28万7502人と約2.3倍増加した。選挙区は郡市を単位に10選挙区とし、定数は41名であった。新選挙法に対するとまどいもあって、候補者の届出はかなりおくれたが、最終的

には64名が立候補し、そのうち43名が新人であった。投票率は、79.8%であった。

(『新編埼玉県史』通史編6より)

埼玉県立文書館 Tel:048-865-0112 Fax:048-839-0539